

(1) 実践内容

- 第3学年・Chapter 2 Project インタビューをしよう・(2/2)
- 相手の顔を見ながら、同時に「聞く」「話す」の技能を活用できるようにする場面を設定した。
- 具体的な活動

Chapter 2 Project「インタビューをしよう」の単元では、外国人にインタビューをすることが狙いと定められている。しかし、本校のALTは本年度で2年目の勤務になり、出身地や好み、または行ったことのある場所等については周知の事実である。そこでALTの協力を得て、海外在住のALTの友人とスカイプで話をするという場面を設定することができた。3年生は2学級あるため、カナダ在住の女性とアメリカ在住の男性2人を紹介してもらい、まずは写真だけを見て質問を考えた。そして次時の授業では、実際に初対面の相手に質問をしたり、逆に質問されたことに対して答えたりする活動を行った。



生徒たちは、普段とは違う高いモチベーションでこの活動に取り組むことができ、外国人と話をするを心から楽しみにしている様子がみられた。要するに、友だちと一緒にホームで活動ができるという心強さはあったと思われる。しかしそれ以上に、相手が聞き取りやすいように心掛けたり、分かりやすいようにジェスチャーを交えながら話をする姿が自然と出てきていたり、ね

らいに対する成果はあったと考える。また、周りで聞いている生徒たちの表情も良く、「もっと話がしたかった」や「もっと笑顔で話せばよかった」等、友だちの姿を見て自己反省をする様子も見られた。全体的に明るく楽しい雰囲気でした。さらに、自宅の様子や自宅前の庭の様子もスカイプを通して紹介していただき、日本と違う雰囲気に感嘆の声が漏れていた。



(2) 成果・課題

本校の校区内には外国人在住者がほとんどいないため、外国人とすれ違うことはおろか、外国語を表記した看板も少ない。そのため、外国語を話す必要性を感じない生徒も多い。そのため、ALTとの交流を生かした活動を多く取り入れるよう心掛け、ALTとのインタビュー活動や、ALTとのランチタイムの設定等、さまざまな活動を企画してきた。今回の活動もその一環である。今後も、外国語や外国人と触れ合う場面を多く設定し、自信を持って天竜区を巣立って行ったり、この天竜区を盛り上げていったりする存在になってくれたらよいと考えている。

しかし、同じ「表現力」でも、「書く力」については伸び悩むところがある。自主学習の定着も課題の一つではあるが、「書く力」の向上を図るための方法を私自身が学んでいきたいと感じている。それにより4技能がバランスよく備わることが期待され、2020年の東京オリンピックでは、この天竜区から選手やボランティアに率先して出ていける人材を輩出していきたいと考える。